

編著 松尾 慎

著者 五嶋 友香 | 澁谷 こはる | 鈴木 雅大 | 東樹 美和 | 西村 愛 | 矢部 紬





## ほんしょ　つか 本書を使われるみなさんへ

に　ほんしゃかい　た　ぶん　か　か　すす　なか　ば　がいこくせき　ひとびと　う　い　せつしよく  
日本社会において多文化化が進む中、さまざまな場で外国籍の人々を受け入れ、接触  
し、こうりゅう　き　かい　こん　ご　ぞう　か　よ　そう　こと　ぶん　か　てきはいけい  
交流する機会は今後、ますます増加していくことが予想されます。異なる文化的背景  
ひとびと　せつ　さい　もと　た　ぶん　か　み　め　きゃっかんてき　ぶんせき　ちから  
の人々と接していく際に求められるのが、多文化を視る目を客観的に分析する力、そして、  
こと　はいけい　も　も　の　どう　し　きょうどうてき　ものごと　つく　あ　ひつよう　たい　わ　りよく  
異なる背景を持つ者同士が協働的に物事を作り上げていくために必要とされる対話力であ  
り、ときに起こりうる摩擦や対立に対して、それが起きた原因を見定め対応していく問題  
かいけつりよく　ほんしょ　ちから　こうじょう　め　び　きょうざい　くに　ぶん　か　わく  
解決力です。本書は、こうした力の向上を目指した教材です。また、国や文化という枠を  
こ　そんざい　ぶん　か　てき　さい　こ　ちきゅう　し　みん　し  
超えて存在するグローバルイシューについて、文化的差異を超えて、地球市民としての視  
てん　たい　わ　ちから　やしな　ほんしょ　おお　もくてき　ひと  
点から対話できる力を養うことも本書の大きな目的の一つです。

ほんしょ　あ　じこく　た　こく　じょうきょう　り　かい　くわ　きょうしつ  
本書で挙げた 12 のトピックについて、自国や他国の状況を理解することに加え、教室  
なか　ま　たい　わ　まな　あ　とお　み　かた　あた　はっけん  
の仲間との対話、学び合いを通して「そんな見方があったのか」といった、新しい発見が  
う　ものごと　もんだい　とら　もの　さ　おお　ゆた  
生まれることで物事やある問題を捉える「物差し」がより多く、豊かになっていくことを  
ねが　せいかい　と　おお　ふく　ほんきょうざい　とくちょう  
願っています。正解のない問いが多く含まれていること、それも本教材の特徴です。その  
と　たい　みな　せいかい　さが　ひつよう　じ　ぶん　じ　しん　こた　さが  
ような問いに対し、皆さんは正解を探す必要はありません。でも、自分自身の答えを探し  
てほしいと思います。そして、それぞれの答えを教室の仲間と共有してほしいと思います。  
また、自分自身の答えを探すために仲間と対話をしてください。そのとき大切にしていし  
いことは、きくことです。じ　ぶん　かんが　つた　ちから　たいせつ　き  
自分の考えを伝えること、伝える力も大切ですが、聴くことも  
また、た　しゃ　り　かい　ひ　じょう　じゅうよう　おも　じ　ぶん　かんが　しゅちょう　こと  
他者を理解するために非常に重要なことだと思います。自分と考えや主張が異なる  
なか　ま　はっけん　う　と　たい　わ　すす　なか　たが　かんが　しゅちょう  
仲間の発言もまずはしっかり受け止めましょう。対話を進める中で、互いの考えや主張に  
へん　か　だいさん　かんが　う　か　のうせい  
変化がみられるかもしれません。第三の考えが生まれる可能性もあります。

ねん　がつ　にち　に　ほん　ご　きょういく　すいしん　かん　ほうりつ　こう　ふ　し　こう  
2019 年 6 月 28 日、「日本語教育の推進に関する法律」が公布、施行されました。こ  
ほうりつ　き　ほん　り　ねん　がっこう　じ　どうせい　と　りゅうがくせい　かくぶん　や　ぎ　のうじっしゅうせい　なんみん  
の法律では、基本理念として、学校の児童生徒や留学生、各分野の技能実習生、難民など、  
たち　ば　ざいりゅうがいこくじん　に　ほん　ご　きょういく　う　き　かい　さいだいがんかく　ほ　うた  
さまざまな立場の在留外国人らの日本語教育を受ける機会を最大限確保することを謳って  
います。本書がそうした機会を広げるきっかけになれば幸いです。

きょうしつ　まな　あ　まな　たび　たの  
教室での学びをつくり上げるのは、みなさんひとりひとりです。学びの旅が楽しいもの  
になりますよう、祈っています。

2022 年 12 月  
まつ　お　しん  
松尾　慎



|      |       |         |     |
|------|-------|---------|-----|
| ほんしょ | つか    |         |     |
| 本書   | を使われる | みなさんへ   | i   |
| かく   |       |         |     |
| 各    | ユニットの | テーマについて | iv  |
| ほんしょ | つか    | かた      |     |
| 本書の  | 使い方   |         | vii |
| かつどう |       |         |     |
| 活動の  | ヒント   |         | xv  |

|      |     |     |     |
|------|-----|-----|-----|
| ユニット |     |     |     |
| 1    | ともに | ある  | い   |
|      | 歩く、 | ともに | 生きる |
|      |     |     | i   |

|      |     |     |    |    |    |    |    |
|------|-----|-----|----|----|----|----|----|
| ユニット |     |     |    |    |    |    |    |
| 2    | 100 | ねん  | ご  | あお | うみ | あお | そら |
|      |     | 年後の | 青い | 海、 | 青い | 空  |    |
|      |     |     |    |    |    |    | 5  |

|      |      |   |   |   |      |   |
|------|------|---|---|---|------|---|
| ユニット |      |   |   |   |      |   |
| 3    | たんでい | が | あ | ー | たんでい |   |
|      |      |   |   |   |      | 9 |

|      |    |   |      |   |    |    |
|------|----|---|------|---|----|----|
| ユニット |    |   |      |   |    |    |
| 4    | その | ひ | のために | 「 | いま | 」  |
|      |    |   |      |   |    | 13 |

|      |     |    |   |    |    |    |
|------|-----|----|---|----|----|----|
| ユニット |     |    |   |    |    |    |
| 5    | カカオ | をつ | く | った | のは | ボク |
|      |     |    |   |    |    | 19 |

|      |       |       |     |   |           |      |
|------|-------|-------|-----|---|-----------|------|
| ユニット |       |       |     |   |           |      |
| 6    | Every | Child | Has | a | Beautiful | Name |
|      |       |       |     |   |           | 25   |

|      |    |     |  |  |  |    |
|------|----|-----|--|--|--|----|
| ユニット |    |     |  |  |  |    |
| 7    | たび | で   |  |  |  |    |
|      | 旅に | 出よう |  |  |  | 29 |

|      |     |    |    |  |  |    |
|------|-----|----|----|--|--|----|
| ユニット |     |    |    |  |  |    |
| 8    | ちい  | おも |    |  |  |    |
|      | 小さな | 思い | やり |  |  | 33 |

ユニット  
9 Mottainai 37

ユニット  
10 あなたとわたしの健康<sup>けんこう</sup> 41

ユニット  
11 家族を支える子ども<sup>こ</sup> 45

ユニット  
12 私<sup>わたし</sup>、わたし、ワタシ 49

しつもん こた  
質問の答え 53

かんまつ しりょう  
巻末資料 61

資料①「スーパーのチラシ」(ユニット3) 62

資料②「わたしの避難<sup>ひなん</sup>カード」(ユニット4) 63

資料③「履歴書<sup>りれきしょ</sup>」(ユニット12) 68

資料④「わたしの名刺<sup>めいし</sup>」(ユニット12) 70

あとがき 72

ちよしや  
著者プロフィール 73

【サポートサイト】(2023 年現在)

<https://www.bonjinsha.com/wp/tomomana>



--->  
Download



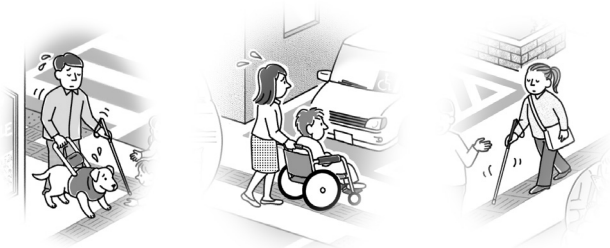
ぼんじんしゃ  
(凡人社ウェブサイト内特設ページ)

「コンテンツ集<sup>しゅう</sup>」  
「サポーターの手引き<sup>てびき</sup>」など

## かく 各ユニットの テーマについて

### ユニット 1 ともに<sup>ある</sup>歩く、ともに<sup>い</sup>生きる

みなさんは町で<sup>まち</sup>盲導犬<sup>もうどうけん</sup>を見たことがありますか。盲導犬<sup>もうどうけん</sup>と盲導犬ユーザー<sup>もうどうけん</sup>、そして、わたしたちがともに<sup>しあわ</sup>幸せに暮らすためには、どのようなことが必要<sup>ひつよう</sup>でしょうか。



### ユニット 2 100<sup>ねんご</sup>年後の青い海、青い空<sup>あお うみ あお そら</sup>

ごみの問題<sup>もんだい</sup>について考え<sup>かんが</sup>ましょう。ごみが増え<sup>ふ</sup>ると、どのような問題<sup>もんだい</sup>があるでしょうか。未来<sup>みらい</sup>の地球<sup>ちきゅう</sup>のために、「今日<sup>きょう</sup>から」できることは何<sup>なん</sup>ですか。

### ユニット 3 たんでいがあーたんでい

世界<sup>せかい</sup>にはいろいろな文化<sup>ぶんか</sup>があります。日本<sup>にほん</sup>にもいろいろな文化<sup>ぶんか</sup>があります。いろいろなことば、いろいろな食べ物<sup>た もの</sup>、いろいろな行事<sup>ぎょうじ</sup>について、みんな<sup>みんな</sup>で話<sup>はな</sup>しましょう。

### ユニット 4 その日<sup>ひ</sup>のために「今<sup>いま</sup>」

災害<sup>さいがい</sup>はいつ起こ<sup>お</sup>るかわかりません。今日<sup>きょう</sup>かもしれないし、明日<sup>あした</sup>かもしれない。自分<sup>じ</sup>を守<sup>まも</sup>るために、家族<sup>かぞく</sup>や周り<sup>まわ</sup>の人<sup>ひと</sup>を守<sup>まも</sup>るために、今<sup>いま</sup>からできることを考え<sup>かんが</sup>てみましょう。

## ユニット5 カカオをつくったのはボク

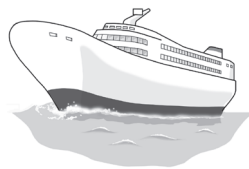
あなたが着<sup>き</sup>ている服<sup>ふく</sup>、食<sup>た</sup>べているものがどのようにできているか知<sup>し</sup>っていますか。わたしたちの身<sup>み</sup>のまわ<sup>まわ</sup>りにあるものには、児<sup>じ</sup>童<sup>どう</sup>労<sup>ろう</sup>働<sup>どう</sup>が関<sup>かん</sup>係<sup>けい</sup>しているかもしれません。児<sup>じ</sup>童<sup>どう</sup>労<sup>ろう</sup>働<sup>どう</sup>の問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>について考<sup>かん</sup>えてみましよう。

## ユニット6 Every Child Has a Beautiful Name

だれもが安<sup>あん</sup>心<sup>しん</sup>、安<sup>あん</sup>全<sup>ぜん</sup>に生<sup>い</sup>きることができ<sup>せ</sup>る世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>をつくるために必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>なこ<sup>なん</sup>とは、何<sup>なん</sup>でし<sup>い</sup>ょうか。さ<sup>けん</sup>ま<sup>り</sup>ず<sup>たい</sup>な権<sup>けん</sup>利<sup>り</sup>の大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>さにつ<sup>かん</sup>いて、考<sup>かん</sup>えてみましよう。

## ユニット7 旅に出よう

みんな<sup>せ</sup>で、世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>一<sup>いっ</sup>周<sup>しゅう</sup>旅<sup>りょ</sup>行<sup>こう</sup>を計<sup>けい</sup>画<sup>かく</sup>しまし<sup>い</sup>ょう。みなさん<sup>い</sup>が行<sup>い</sup>きたいとこ<sup>い</sup>ろはど<sup>い</sup>こで<sup>い</sup>すか。だれ<sup>い</sup>と行<sup>い</sup>きたいで<sup>い</sup>すか。ど<sup>い</sup>のよ<sup>い</sup>うなこ<sup>い</sup>とがし<sup>い</sup>たいで<sup>い</sup>すか。何<sup>なん</sup>が食<sup>た</sup>べたいで<sup>い</sup>すか。



## ユニット8 小さな思いやり

わたしたちの周<sup>まわ</sup>りにはだれにでも使<sup>つか</sup>いやすいデ<sup>ひと</sup>ザ<sup>ひと</sup>イン、モ<sup>ひと</sup>ノがあ<sup>ひと</sup>ります。すべ<sup>ひと</sup>ての<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>が使<sup>つか</sup>いやすいデ<sup>ひと</sup>ザ<sup>ひと</sup>インだけ<sup>ひと</sup>でなく、思<sup>おも</sup>い<sup>き</sup>や<sup>も</sup>りの気<sup>たい</sup>持<sup>せつ</sup>ちも大<sup>ひと</sup>切<sup>ひと</sup>です。わたしたち<sup>かん</sup>にでき<sup>かん</sup>るこ<sup>かん</sup>とを考<sup>かん</sup>えてみましよう。

## ユニット 9 Mottainai

まいにち なに た 毎日、何を食べていますか。まだ食べられるものを捨ててしまうことはありませんか。  
しょくひん へ 食品ロスを減らすために、わたしたちにできることを考えてみましょう。

## ユニット 10 あなたとわたしの健康

あなたは、こころと体の健康のためにしていることはありますか。家族や友だちが元  
き 気がないとき、あなたならどうしますか。あなたや周りの人の、こころと体の健康の  
ためにできることを考えましょう。

## ユニット 11 家族を支える子ども

かぞく かいご せ わ 家族の介護や世話をしている子どもがいます。子どもの将来を考えたとき、どんなこ  
とが大切でしょうか。学校や地域が子どものためにできることを考えましょう。

## ユニット 12 私、わたし、ワタシ

あなたはどんな人ですか？と聞かれたら、何と答えますか。仕事を探するときの「わた  
し」と友だちと話すときの「わたし」は同じですか。履歴書や名刺を使って、いろい  
ろな「わたし」について話してみましょう。



## ほんしょ つか かた 本書の使い方

この本は、この本を使って活動するすべての参加者が学び合えることを願って作られました。「学び合い」がこの本のキーワードになります。この本を使った活動に参加する人は、日本語を母語にする人、母語に準じて日本語を使用する人、日本語を第二言語とする人などに分けられるかもしれません。また、日本語の習熟度によって、日本語習得をサポートする人、日本語の習得を目的とする人に分けることも可能でしょう。それに伴い日本語習得をサポートする人は、ファシリテーターやサポーターとしての役割を担うことになるかもしれません。こうした役割を否定するものではありませんが、この本はファシリテーターやサポーターを含め、どのような背景をもつ参加者もできる限り対等に公平に「学び合い」に参加できるようデザインされています。学び合いを促すため、12のユニットはさまざまなトピック、テーマで構成されています。「読みましょう」で提示されるトピックの理解をきっかけに、さらに考え、対話を重ねることで、トピックの背後にあるテーマに関して、学び合いが起きることでしょう。

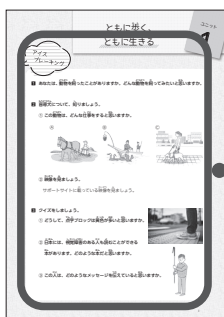
ファシリテーターやサポーターとしての役割を担う人は、できる限り、対話を広げること、つなげることを意識してください。話が広がったり、脱線したりしても構いません。むしろ歓迎してください。また、「待つこと」を大切にしてください。問いかけに対し、ゆっくり考えて答える人もいます。「待つこと」は実は簡単ではなく、かなりむずかしいことですが、是非、チャレンジしてください。その日の活動を終わるときにすべての参加者が「学びがあった」と思い合えるような活動になることを願っています。

著者メンバーたちは、全員、ミャンマー出身の難民的背景をもつ人びとなどの日本語活動にサポーターとして参加しています。活動の内容や方法、理念はこの本で示しているものと似ています。

以下、【アイスブレイキング】から【今日の振り返り】まで活動の順序にそって本書の使い方方を説明、提案していきます。それぞれの部分の最後に、わたしたちの日本語活動で実際に起こった学び合いやサポーターの成長、(サポーター以外の)参加者の思いなどが吹き出しにして紹介されています。また、「まつお一口メモ」では、編著者(まつお)自身が関わっている日本語活動の中で大切にしている思いや活動におけるちょっとした工夫、学び合いを具現化している実践例に関し述べられています。

ここで「参加者」と「サポーター」ということばについて説明します。わたしたちは教室に集う人は、すべて参加者であり、学習者であると考えています。サポーターは、ある局面で日本語を教えたり活動をファシリテートしたりしますが、学び合いの一員として学習者でもあり、もちろん参加者でもあります。こうした考えにもとづいて本書は作成されています。

# アイスブレーキング



## アイスブレーキング

頭と心を活性化し、場をあたためる「アイスブレーキング」は、とても大切な活動です。参加者全員が話すことで、お互いを理解することにもつながります。

各ユニットの「アイスブレーキング」の①は、ちょっとしたやりとりができるようになっています。各ユニットのひとつ目の活動です。初めて活動に参加する方がいるときは、①の前に「名前」

や「仕事」、「勉強していること」などをいっしょに話してもいいですね。

「アイスブレーキング」の②以降では、その日のトピックに関連するクイズをしたり、ゲームをしたりします。「読みましょう」に入る前にトピックについて知る時間です。活動に参加するすべての人が、同じ目線で活動に参加できるような雰囲気づくりが大切です。

### サポーターのひとこと

- ・初参加のときは、自己紹介で自分の勉強している「国際関係」を「みんながわかる」ことばで説明するのがむずかしかったです。周りにサポートしてもらったり、活動に何度も参加したりすることで、やさしく言い換えることができるようになりました！
- ・「アイスブレーキング」は、その日のトピックの導入の時間であるだけでなく、「自分の考えや意見を安心して聴いてもらえる場所」と互いに思える活動になるといいなと感じています。

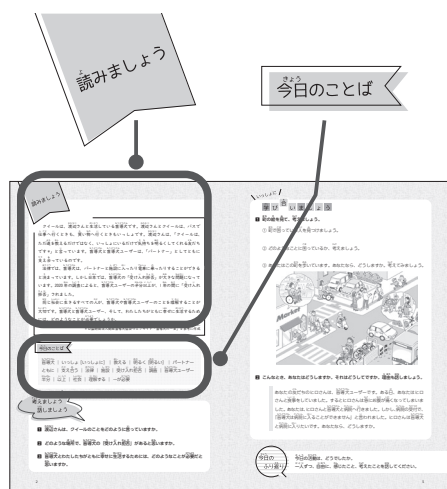


### 参加者のひとこと

- ・アイスブレーキングのクイズが、毎回楽しみです！
- ・わたしはコンビニで仕事をしているので、「売れ筋商品ランキングクイズ」では、全問正解でした！



# よ 読みましょう / きょう 今日のことば



「読みましょう」では、各ユニットのテーマやトピックに関する文章を参加者全員で読みます。内容を確認しながら、テーマやトピックについて理解を深めましょう。

「今日のことば」では、理解を深めるためのキーワードとなる語彙を取り上げています。「読みましょう」を読みながら、語彙の意味を確認しましょう。

参加者のようすをみて、「今日のことば」には載っていないけれども必要なことばを取り上げてもいいです。あなたの教室に合わせて、自由に活動をデザインしてみてください。

## サポーターのひとこと

- 語彙の説明をするときは、どのことばをどこまで説明するか、参加者のようすをみながら調整しています。なかなかむずかしいことですが、回数を重ねることですでにできるようになってきました。
- パワーポイントや映像を見せる際、すべての参加者にしっかり見えているかどうか意識しながら活動しています。座る位置、画面の角度によって見えやすさが違ってきます。現在も特訓中！



## 参加者のひとこと

- 最近のニュースや新しいことば、よく聞くけれど意味があまりわからなかったことばを、活動で勉強することができました。
- わたしはもう5年くらい活動に参加しています。初参加の人がいるときは、ビルマ語（ミャンマー語）や英語を使いながらサポートをしています。



まっおーロメモ

【読みましょう】の文章の音読に関しては、いろいろな進め方があると思います。最初に、サポーターの誰かが全文を音読する進め方もあります。また、段落ごとや一文ごとに交代で音読してみる進め方もあります。また、全文の理解を終えたあとに、全員で一斉に音読してもいいでしょうし、しなくてもいいと思います。その判断をその場その場ですることもあります。いずれにしても、参加者全員が音読のペースについていけているかどうか、視野を広くして、ひとりも取り残されない活動にしていきたいと思って活動しています。

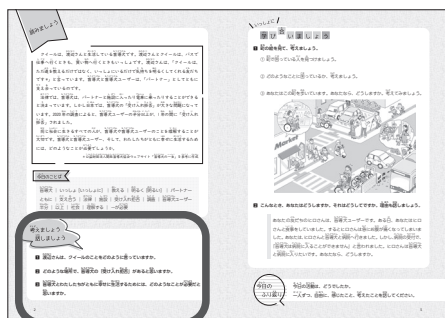


まっおーロメモ

【今日のことは】の説明の方法はさまざまでしょう。パワーポイントなどを使って、視覚的に示す方法もあるでしょうし、ことばだけで説明する方法もあるでしょう。しっかり理解できるように、できる限り身近な話題の中での例文をいくつか提示してみるのもいいと思います。「わかりましたか？」と尋ねてもいいですが、理解を確認するために、何か質問してみてもいいと思います。



# かんが はん 考えましよう 話しましよう



かんが  
考えましよう  
はん  
話しましよう

「読みましよう」の内容理解を深めるための問  
い。問いにはふたつ種類があります。ひとつ  
は、「読みましよう」本文の中から答えを見つけ  
る問いです。もうひとつは、本文の中から答えを  
み つかせるのではなく、参加者が自由に考えたり、  
メインテーマについて自分の知っていることを話  
し合ったりする問いです。

本文を読むだけではなく、ここで参加者全員で  
話し合って理解を深めましよう。

## サポーターのひとこと

- グループワークでは聴くことに専念していたKさん。全体共有のときは、他の  
グループの意見も聴いた上で、自分から、自分のことばで話をしていました。  
無理に話してもらうのではなく、待つことで、参加者の語りを引き出せること  
もあります。



## 参加者のひとこと

- グループで話したことをみんなの前で発表しました。みんなが聴いてくれて、  
うれしかったです。



## まっおーロメモ

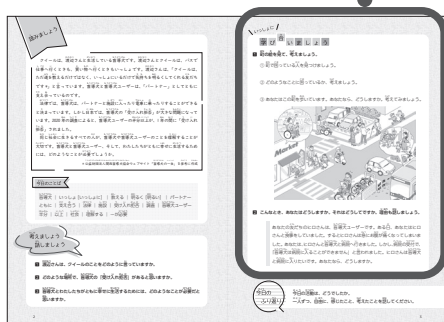
【考えましよう 話しましよう】の進め方ですが、グループ活動にしてもいいですし、問いに  
よっては全員で考えてみてもいいでしょう。その場に合った進め方を選んでください。グ  
ループ活動の中で、サポーターは参加者間の対話を促すために、聴くこと、待つことを大切  
にできたらいいと思います。サポーター自身も自分の考えを伝えることで学び合いが促進さ  
れるでしょう。グループ活動のあとの全体共有では、だれが発表しても構いません。また、  
発表するときにホワイトボードなどにポイントを書き、見せながら発表すると、  
発表しやすく、また、聴いている人にもわかりやすくなる場合があります。



# まなあ 学び合いましょう

／ いっしょに /

まなあ  
学 び 合 い ま し ょ う



「読みましょう」に関連のあることについて、参加者全員で学び合います。学び合う方法は各ユニットによってさまざまです。例えば、児童労働に関する映像を見て、感じたことを話し合ったり、ごみを減らす方法を大切だと思う順番に並べ替えたり、町で困っている人がいたらどうするかを考えたりする活動があります。また、参加者全員で世界地図をかき、その世界地図を使って世界旅行の計画を考えるというお楽しみ系の活動もあります。

どのような活動であっても、対話を通して、ともに学び合う姿勢を大切にしましょう。対話をする中で、多くの学びが得られます。ここでの学びが、参加者ひとりひとりの何かを変えるきっかけになるかもしれません。

## サポーターのひとこと

- ・フードロスについての活動（参考：ユニット 9）では、さまざまな国や地域でのフードロスを減らすための取り組みを話しました。「ミャンマーでは米のとぎ汁で漬物を作る」など、あまり馴染みのない取り組みについても知ることができました。
- ・ヤングケアラーについて学んだ回（参考：ユニット 11）では、「日本人はこういう人のことをよく『かわいそう』と言うけれど、それで人生が終わりだとは思わない。自分を信じて頑張れば、よくなると思う」という意見が出ました。このことばを聴いて、新たな視点を得ることができました。



## 参加者のひとこと

- ・キッチンカーのメニューを考えました。わたしの知らない料理がたくさんあって、「これはどんな料理ですか？」など、みんなで話すのが楽しかったです。





## まっおーロメモ

【学び合いましょう】では、まさに学び合いが起きるといいですね。実際にわたしたちの活動で行ったことを紹介します。その日の活動は、熱中症対策と節電がテーマでした。節電の方法として、定期的にエアコンを掃除することが挙げられていました。すると、日本語を学びはじめて間もない参加者が「わたしは掃除をしたことがあります」と発言しました。日本に20年以上住んでいるミャンマー出身の参加者も「わたしもできます」とのこと。一方で、その日の活動に参加していた大学生たちはだれもエアコン掃除をしたことがありませんでした。そこで、【学び合いましょう】の活動内容を急遽、変更し、教室のエアコン掃除を二人の指導のもとに行ってみることにしました。エアコンもきれいになったし、みんなも笑顔になりました。その日に学んだことをすぐに実践できました。わたしはこうしたことも学び合いの一つであると考えています。ちなみに、わたしもエアコン掃除をしたことがなかったのですが、帰宅後、すぐに掃除してみました。



## サポートサイトについて

この教材にはサポートサイトがあります。参加者全員に向けた「コンテンツ集」と主にサポーターに向けた「サポーターの手引き」が配信されています。コンテンツ集では、各ユニットで扱われているテーマや話題に対する理解を深め、活動を広げるために参考になる資料が紹介されています。サポーターの手引きでは、活動の進め方が詳しく説明されています。また、活動を活性化させるための資料も紹介されています。

### 【サポートサイト】

<https://www.bonjinsha.com/wp/tomomana>

### 【コンテンツ集】



### 【サポーターの手引き】



# 今日のふり返し



「今日のふり返し」では、活動全体のふり返しを行います。参加者ひとりひとりが今日の活動で学んだことや気づいたこと、楽しかったことなどを自由に話しましょう。短くてもいいので、自分のことばで伝えましょう。話している人以外は聴くことを大切にしましょう。

毎回の「今日のふり返し」をサポートが記録することで、後日全員の学びをふり返ることもできると思います。

## サポーターのひとこと

- 初めて参加した頃は「今日はありがとうございました。」の一言のみだったBさん。何度も活動に参加し、Bさん自身が自信をつけたこと、周りがBさんのことばを「聴く」姿勢をもったことで、自分の気持ちや学んだことをゆっくりでも自分のことばで話してくれるようになりました。



## 参加者のひとこと

- 教室が終わったあとも、活動で学んだことを考えています。友だちに話すこともあります。



# 語彙リスト



語彙リストには、「今日のことば」やその回の活動に出てきた単語が記載されています。対訳は、ビルマ語（ミャンマー語）、ベトナム語、中国語、英語の4言語です。参加者に合わせて、活動の中で参考にしてください。